

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果 概要

豊後大野市教育委員会

1 平均正答率 (%) : 全国平均を上回った区分に着色

調査学年	小学校6年生					中学校3年生					
	国語		算数		理科	国語		数学		理科	英語
	A問題	B問題	A問題	B問題		A問題	B問題	A問題	B問題		
H25 ()内は全国	62.3 (62.7)	46.6 (69.4)	80.1 (77.2)	59.0 (58.4)		74.7 (76.4)	66.4 (67.4)	57.8 (63.7)	36.7 (41.5)		
H26	71.7 (72.9)	54.8 (55.5)	76.4 (78.1)	53.7 (58.2)		79.7 (79.4)	53.6 (51.0)	65.9 (67.4)	56.8 (59.8)		
H27	69.2 (70.0)	64.1 (65.4)	74.1 (75.2)	42.0 (45.0)	56.6 (60.8)	73.3 (75.8)	65.2 (65.8)	60.2 (64.4)	35.4 (41.6)	49.3 (53.0)	
H28	71.9 (72.9)	55.5 (57.8)	75.1 (77.6)	45.8 (47.2)		76.3 (75.6)	69.4 (66.5)	59.6 (62.2)	40.3 (44.1)		
H29	77 (74.8)	61 (57.5)	83 (78.6)	50 (45.9)		78 (77.4)	73 (72.2)	62 (64.6)	43 (48.1)		
H30	72 (70.7)	55 (54.7)	64 (63.5)	52 (51.5)	60 (60.3)	75 (76.1)	61 (61.2)	61 (66.1)	41 (46.9)	66 (66.1)	
R元(H31)	68 (63.8)		68 (66.6)			72 (72.8)		53 (59.8)			52 (56.0)
R2	コロナウイルス感染症拡大防止のため実施せず										
R3 豊後大野市	69 (全国 64.7)		72 (全国 70.2)			66 (全国 64.6)		52 (全国 57.2)			
大分県	66		70			66		57			
全国	64.7		70.2			64.6		57.2			

※ 令和元年度（平成31年度）から、A（知識）・B（活用）を一体的に問う。

2 同一児童生徒の正答率の比較 (市としての目標値の達成に向けて) (一昨年度の中学3年)

教科及び 問題	国語		算数・数学		英語
	A問題	B問題	A問題	B問題	
小学6年 (H28年)	71.9 (-1.0)	55.5 (-2.3)	75.1 (-2.5)	45.8 (-1.4)	
中学3年 (R元年)	72 (-0.8)		53 (-6.8)		52 (-4.0)

(今年度の中学3年)

教科及び 問題	国語		算数・数学		
	A問題	B問題	A問題	B問題	
小学6年 (H30年)	72 (+1.3)	55 (+0.3)	64 (+0.5)	52 (+0.4)	
中学3年 (R3年)	66 (+1.4)		52 (-4.8)		

※ () 内はその年の全国平均との差

3 新大分スタンダードに関する質問の肯定率

	小学6年 質問紙	中学3年 質問紙
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う。	市 88.7 (全国 78.2)	市 73.5 (全国 81.0)
授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思う。	市 68.1 (全国 63.5)	市 62.9 (全国 62.0)
生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	市 85.0 (全国 78.8)	市 74.3 (全国 77.8)

※肯定率とは、4択質問の肯定的な回答の上位2つの割合の合計

※全国の肯定率を上回ったものを着色

問題解決的な展開の授業が取り組まれるようになってきている。

「思考力・判断力・表現力」も意識されるようになってきている。

授業改善が進みつつあるが、さらなる徹底が必要である。

令和3年度全国学力・学習状況調査結果の分析

豊後大野市教育委員会

市としての目標値・・・平均正答率で全国平均を上回る

【結果の概要】

《小学校》

- 全国学力・学習状況調査においては、4年連続（H29～R3）して、国語、算数で目標値である全国平均正答率を上回った。
さらに、大分県平均正答率も上回った。
- 授業改善が進み、問題解決的な学習展開も進みつつあると考えられる。

《中学校》

- 国語においては、全国平均・県平均を上回った。
- 数学については、全国平均・県平均を下回り、目標達成ならず。
また、全国平均との差が大きい。（数学：－5.2）
- 学校間の格差が大きい。
- 授業改善は進んでいると考えられる。

《同一児童生徒》

- 中学校において、国語は順調に力を維持または伸ばすことができているが、数学については、力を伸ばしきれていない状況がうかがえる。
- 学年集団の持つ課題の明確化が必要である。

《新大分スタンダードに関して》

- 問題解決的な展開の授業が取り組まれるようになってきている。
- 自分の考えを述べたり、話し合ったりする場の設定など、「思考力・判断力・表現力」を身につけるような意識や工夫がされるようになってきている。
- 授業改善が進みつつあるが、さらなる徹底が必要である。

【各教科の概要】

《小学校》 観点ごとの全国平均正答率と市平均正答率

○国語

観点	市正答率	全国正答率
話すこと・聞くこと	78.0	77.8
書くこと	62.3	60.7
読むこと	50.1	47.2
言葉の特徴や使い方に関する事項	75.4	68.3

●正答率が全国平均を下回っている問題 (4/14)

- ・資料を用いた目的を理解する
- ・文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する
- ・思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う
- ・自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える

○主語と述語との関係や修飾と被修飾との関係に気を付けて文を整えることが、自分の思いや考えを正確に伝える上で重要であると気付くことができるように指導することが大切である。

○目的や意図に応じて、資料を選択し、聞き手に提示する資料のどの部分に着目してほしいのかのような説明を加えると話の内容を分かりやすく伝えられるのかについて検討し、自分の表現に生かすことができるように指導することが引き続き大切である。

○自分の考えが伝わるように書くためには、目的や意図に応じて、詳しく書く必要がある場合や簡単に書いた方が効果的である場合を、自ら判断して書くことができるように指導することが大切である。

○図表やグラフなどを含む文章を読む際に、文章中に用いられている図表などが、文章のどの部分と結び付くのかを明らかにし、文章と図表との関係を捉えて読むことができるように指導することが大切である。

<授業改善>

○資料から理解したことをまとめるなどの学習を取り入れる。国語科だけでなく他の教科と連動して実施する。

○説明文を中心として要約文を書かせる。

○基礎・基本的な内容の反復練習を行い、定着を図る。

○授業において児童のつまづきを予想した上での個別の支援を考える。

《小学校》

観点ごとの全国平均正答率と市平均正答率

○算数

観点	市正答率	全国正答率
数と計算	67.6	63.1
図形	60.7	57.9
測定	78.1	74.8
変化と関係	75.4	75.9
データの活用	77.5	76.0

●正答率が全国平均を下回っている問題（4／16）

- ・速さを求める除法の式と商の意味を理解している
- ・複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述できる
- ・棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができる
- ・集団の特徴を捉えるためにどのようなデータを集めるべきかを判断することができる

○除法の場面では、数量の関係に着目して被除数と除数を捉えて立式をしたり、計算結果について、日常生活の場面に即して判断したりできるように指導することが大切である。

○図形の面積を求める際、図形を構成する要素などに着目して必要な情報を選び出し、面積の求め方について筋道を立てて説明できるように指導することが大切である。

○速さを比べる場合には、伴って変わる二つの数量の関係に着目し、それらの関係を用いたり、単位量当たりの大きさの意味及び表し方を理解し、単位量当たりの大きさをを用いて比べたりできるように指導することが大切である。

○身の回りの事象について、データに基づいて判断する統計的な問題解決の方法を知り、その方法で考察できるようにすることが重要である。

<授業改善>

○基礎・基本的な内容の反復練習を行い、定着を図る。

○授業で考えを出し合う場面や練習問題の場面において、誤答を丁寧に扱うことで、「なぜ間違えたか。」を考え、知識・技能を活用する場を設ける。

○毎時間、計算の確認を実施したり、ドリルやプリントを宿題に出して反復練習を行わせたりすることによって、定着を図る。

○定着のよくないものについては、補充学習の時間に指導する。

《中学校》

観点ごとの全国平均正答率と市平均正答率

○国語

観点	市正答率	全国正答率
話すこと・聞くこと	82.3	79.8
書くこと	58.5	57.1
読むこと	49.9	48.5
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.8	75.1

●正答率が全国平均を下回っている問題 (3/14)

- ・書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く
- ・事象や行為などを表す多様な語句について理解する
- ・相手や場に応じて敬語を適切に使う

○話し合いを効果的に進め、互いの発言を踏まえて、考えをまとめたり広げたり深めたりする力を身に付けるために、第1学年では、話題や展開を捉えながら、第2学年では、互いの立場や考えを尊重しながら、第3学年では、進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合うことなどについて、意図的・計画的に指導を重ねることが大切である。

○読み手の立場に立ち、自分が書いた文章について捉え直し、分かりやすい文章に整える力を身に付けるために、第1学年では、表記や語句の用法、叙述の仕方などを、第2学年では、表現の効果などを、第3学年では、目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめることについて指導する必要がある。

○文章の内容を理解したり自分の考えを形成したりする力を身に付けるために、「読むこと」の学習過程を意識しながら、例えば、文学的な文章を読んで考えたことなどを記録したり伝え合ったりする言語活動を通して指導することが効果的である。

○敬語などの相手や場に応じた言葉遣いについて理解し、適切に使う力を身に付けるために、小学校での学習を踏まえ、敬語に関する個々の体験的な知識を整理して体系付けるとともに、人間関係の形成や維持における敬語のもつ働きを理解するように指導することが大切である。

<授業改善>

○話し合い活動の中で相手の話すときにメモを必ずとらせ、そのメモから相手の質問の意図を考えさせる。

○段落の要点をまとめさせ、段落の関連性を図を用いて捉えさせる。

○単元のはじめに辞書をひく時間を必ず設け、語彙を広げる時間をつくる。

《中学校》

観点ごとの全国平均正答率と市平均正答率

○数学

観点	市正答率	全国正答率
数と式	58.4	64.9
図形	43.7	51.4
関数	49.0	56.4
資料の活用	54.4	53.8

●正答率が全国平均を下回っている問題 (13/16)

- ・整式の加法と減法の計算ができる
- ・具体的な場面で、一元一次方程式をつくることができる
- ・関数の意味を理解している
- ・問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる
- ・目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる
- ・数学的な結果を事象に即して解釈し事柄の特徴を数学的に説明することができる
- ・与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる
- ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる
- ・ヒストグラムからある階級の度数を読み取ることができる
- ・データの傾向を的確に捉え判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる
- ・平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの理由を説明することができる
- ・錯角が等しくなるための、2直線の位置関係を理解している
- ・ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することができる

○数の性質について成り立つ事柄の特徴を数学的に説明することができるようにするために、文字を用いて表した計算結果を事象と関連付けて読み取る活動を充実することが大切である。

○ある条件の下で図形を動かしたとき、辺や角などについていつでも成り立つ性質を見だし、それを数学的に表現する活動を充実することが大切である。

○日常生活における問題を数学を活用して解決できるようにするために、問題解決の方法に焦点を当て、表、式、グラフの中から用いるものを明確にするとともに、その用い方を適切に表して問題解決の方法を説明する活動を充実することが大切である。

○相対度数の必要性や意味を理解するために、大きさの異なる2つ以上の集団のデータについて、その傾向を比較する活動を充実することが大切である。

<授業改善>

- 授業における振り返りを行う時間を確保し、苦手内容への理解や定着度合いを自己理解させる。
- 授業始めに小テストを実施し、前時の復習から本時に入ることを意識し、基礎・基本的な内容の定着を図る。
- 問題を読み取るだけでなく、「思考の過程を説明する」場面や問題に取り組ませる。
- 文章題など問題を読み取るために「思考ツール」や「イメージ図」、「表やグラフ」などを用いて立式しやすい方法を授業で提案する。

【 豊後大野市 】

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

1 調査結果の概要

小学校：学校質問紙

- 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況について
- ・「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」との問いに対して、本市では90.9% {県平均(88.9%) 全国平均(85.3%)} と肯定的に回答した学校が多い。
 - ・「学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」との問いに対して、本市では81.9% {県平均(75.0%) 全国平均(75.8%)} と肯定的に回答した学校が多い。
 - ・「本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行いましたか」との問いに対して、「週に1回程度、またはそれ以上行った」と回答した学校は、本市では9.1% {県平均(22.1%) 全国平均(20.7%)} と低い。

中学校：学校質問紙

- 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況について
- ・「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」との問いに対して、本市では85.7% {県平均(89.0%) 全国平均(86.0%)} であった。
 - ・「学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」との問いに対して、本市では57.2% {県平均(86.6%) 全国平均(83.6%)} と、肯定的に回答した学校が少ない。
 - ・「本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行いましたか」との問いに対して、「週に1回程度、またはそれ以上行った」と回答した学校は、本市では0% {県平均(5.9%) 全国平均(9.3%)} であった。

2 豊後大野市の学校質問紙調査の結果をふまえて

課題解決学習については、小学校・中学校ともに全国平均に近い数値が出た。一方、話し合い活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることに対して、小学校は全国平均を上回っているものの、中学校では全国平均を大きく下回っている。中学校では、課題解決には取り組んでいるが、伝え合い、さらに自分の考えを深める機会の保障が必要である。

本やインターネット、図書館資料などを活用した授業については、小学校・中学校ともに全国平均より10ポイント近く低い。今年度、一人1台タブレットを配布したことにより、どの授業でもいつの時間でも、インターネットでの調べ学習が可能となった。今後は、各教科ごとに、計画的に時間の確保をすることが必要である。

【 豊後大野市 】

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問紙）

1 調査結果の概要

児童質問紙

○主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況について

- ・「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」との問いに対して、本市では88.7%と、県平均（78.5%）全国平均（78.2%）よりも肯定的に回答した児童が多い。
- ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」との問いに対して、本市では、85.0%と、県平均（77.1%）、全国平均（78.8%）よりも肯定的に回答した児童が多い。
- ・「小学5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」との問いに対して、本市では、88.3%と、県平均（82.5%）、全国平均（81.4%）よりも肯定的に回答した児童が多い。

生徒質問紙

○主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況について

- ・「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」との問いに対して、本市では73.5%と、県平均（79.8%）全国平均（81.0%）よりも肯定的に回答した生徒が少ない。
- ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」との問いに対して、本市では、74.3%と、県平均（78.6%）、全国平均（77.8%）よりも肯定的に回答した生徒が少ない。
- ・「中学2年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」との問いに対して、本市では、74.7%と、県平均（76.5%）、全国平均（74.3%）とほぼ同等であった。

2 豊後大野市の児童・生徒質問紙の調査結果をふまえて

「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況」について、小学校は全国平均・県平均を上回っている。それに対し、中学校は全国平均・県平均を下回っている。この状況が、学力調査の平均値に届かない結果となっている。

そこで、本市では、主体的・対話的で深い学びが重要であると考え、「学びに向かう集団づくり」に向けて、「軸となる活動」について9年間の系統性のある年間計画を作成し、継続して取り組むことにした。

年間計画には、以下の取組を取り入れる

- ・中学校ブロック独自の小中一貫教科の創設など学習指導に関するもの。
- ・生徒指導、障がいのある児童生徒の教育、食育・健康教育・安全教育・体力向上、児童生徒会活動等、指導内容・方法を工夫する。